

平成27年第三回 炭焼き (9月19日・20日)

○本窯

・窯詰め 9月 5日(水) 晴れ
 材種 : アベマキ・アラカシ、
 重量 : 404Kg(敷き木、上げ木は含まず)
 5月と比べると77kg少ない重量となった、乾燥した材と考えられる

* 窯詰め方法

- ①端材を敷き木として敷く(当初より未炭となることを見越して)
- ②70cm材を細い順に幹の方を上にして奥から詰め込みをした
- ③炭材が燃えすぎないように、70cm材の太い物を壁とする為、手前の方に詰め込みをした
- ④炭材の上にはアラカシの小枝や葉っぱを詰め込みをした

・火入れ 9月19日(土) 9:15 :天候 晴れ

・釜閉じ 9月20日(日)15:36 :天候 晴れ

* 窯中央の温度が早くから高くなった、火の回りが早かったのか? 21:30をピークに温度が下がる
 これは燃焼場所が窯中央から奥の方に移っていた事が考えられる

・窯出し 10月 3日(土)

重量 : 70.6Kg(良炭66.6kg、消し炭4.0kg、未炭若干)、良炭の収炭率 : 16.5%

* アベマキの樹皮も炭になったがはがれてしまった→炭材にはむかないのかな?

○ドラム缶窯

・窯詰め 9月12日(土) 晴れ 炭材 : アラカシ他、重量 : 第一窯67.8Kg、第二窯47.5kg
 第一に未炭木5.4kg、第二に未炭竹5.0kgを入れる

* 窯詰め方法

- ①熱の通りを良くする為、下にグルーチングを敷いた
- ②詰め込みは横、26cmの長さにして三列で、第二窯は火が入りやすくする為手前上部を空けた

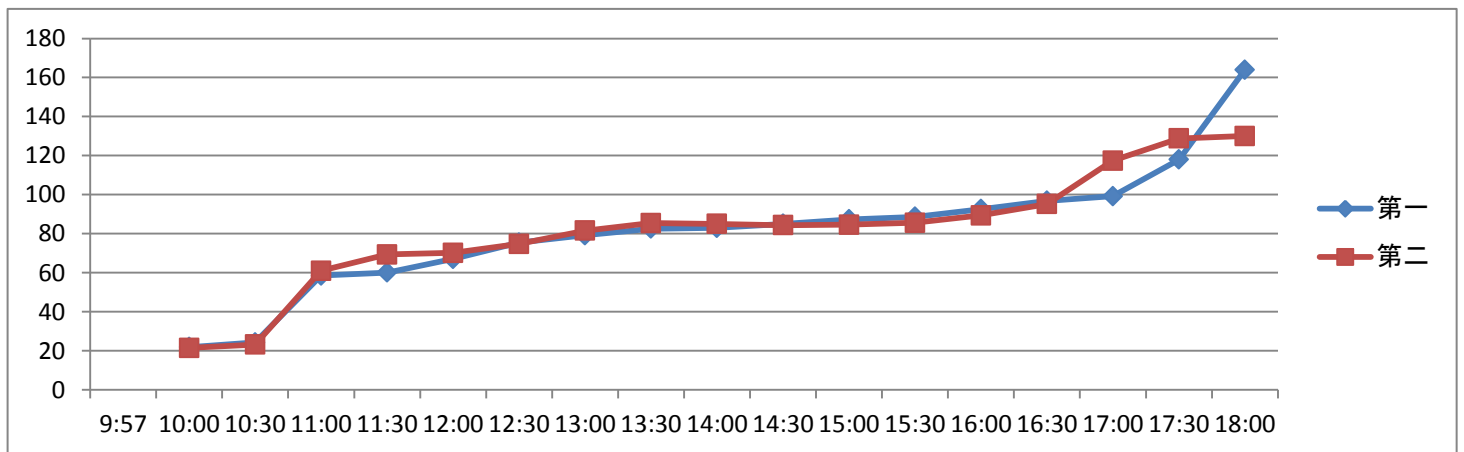
・火入れ 9月19日(土) 9:57 :天候 晴れ : 釜閉じ 第一窯18:00、第二窯17:30

・窯出し 10月 3日(土)

重量 : 第一窯17.1kg(収炭率25.2%)、第二窯17.9kg(収炭率37.5%)

未炭なし、第二窯の収炭率が高いのは、未炭竹の収炭率が52%と高いのも要因か?

ドラム缶窯温度推移



本窯の温度推移

